

六諭衍義大意 全

館	書	圖	款
香	架	函	冊
字	字	字	數
六	五	一	二
二	七		甲
			曲

久保幾次郎氏保管

重刺六諭衍義大意題辭
清朝六諭言簡而旨深其為教也
固善矣。會稽范鉉以俚言敷衍其
義旁引曲諭備盡事情所謂耳提
而面命之者。雖頑夫蚩氓亦可以
獎善而悛惡焉。於是乎施之於鄉
閭而尤以為切於教諭矣。此書之

來於本邦也。享保年間。官既刻之。以敷于海內。而以民間。愚夫愚婦。尚未易通曉。命鳩巢室。子更以邦語解其大意。重命諸梓。於是乎此書之行。益廣。及荒陬遐境。可以家傳而戶誦。其於助教化。

所補亦非小矣。吾公自龔封以來。宵衣旰食。厲精政。治。振紀綱。而崇教化。以為後世教化之道。廢而法令為治。刑禁愈密。而獄訟愈繁。不幾乎所謂不教而殺者耶。亦可憫矣。乃將大興學政。以盛教化。黨庠家塾之教。亦以次。

興_上之_下。以此書之於民俗。尤切_中於教
諭也。欲先施諸封內。以使鄉閭長
民者。徧勸諭冥惠焉。因刊之於國
中。以資於頒布。封內教化之道。行
當大興起矣。此書之行。是其一端
云。

弘化四年丁未孟春

明倫館祭酒山縣禎謹題

六諭衍義は琉球諸程順則と云ふ
人。其國に印^シ印^シ一^ニあ^リるを。之^レに我^レ邦
少色^ハ傳^ヘ來^ス。其^レの^レあ^リた^キや。其^レの^レ學^ブ
卒^ルの^レあ^リる。其^レの^レ文^ヲ其^レの^レ海^ヲ
ぬき^テは。在^リた^キ人^ノを^レ減^ス。其^レの^レ書^ヲ
程^ノ俗^ノ淺^ク迫^ルの^レ語^ヲを^レ用^フ。其^レの^レ書^ヲを

いま一むる事。偏に親切あり。あまほく世に

流布しあふ。人の教誡をなす。のりし。

るしあら。有自於人の。はま作法奉り

事。書坊に命し。梓小綬とむ。然るり

也。編戸の民も。漢古文

字の法さへ。見習さる。此書をどうみる。

是と志於事。のりし。是よりり

重し思存り。作ら。大略とらりて。

わ修法を。是をやりし。事

書毎着の末。律例をのり。又古人

事跡法載あり。と律例と我邦の法日

異同あり。用於邦。とる行む

親切なり

をいひし

ありし

書坊に命し

編戸の民

字の法

是と志

重し思

わ修法

書毎着

事跡法

異同

六諭衍義大意

孝順父母

凡世間ふあはれ人貴き如く賤となり父母の
 うへをふかやひら。自ら其を父母に我が方の出来
 へ本を授け。本授けは忠孝あり。此事あり。況や
 養育之恩。さらり色なき。海なる母の
 いよこし。母忘る人。今孝心を奉けんや

不孝といふ事。何事も父母の教訓に違ふ
 べし。を法とせしむ。よく身を守り。家と
 ためを成す。その子の心はよくおろそかに
 父母に任せしむ。いづれかの業法に違ふのうらこむ
 事。志を成す。是を父母の志を成すといふ事あり
 ぬ。孝といふ事。いづれか父母の志を成す
 べし。今此の時なり。よく孝養とせしむ

父母に違ふ事。いづれか父母の志を成す
 べし。今此の時なり。よく孝養とせしむ
 事。志を成す。是を父母の志を成すといふ事あり
 ぬ。孝といふ事。いづれか父母の志を成す
 べし。今此の時なり。よく孝養とせしむ
 事。志を成す。是を父母の志を成すといふ事あり
 ぬ。孝といふ事。いづれか父母の志を成す
 べし。今此の時なり。よく孝養とせしむ

子多死者。是をばのたまふ。いふ多孝の法起と
 所ふつま。今法を。や孝ありとみ世の人を。
 大い之業とせり。あまそそ。我身にあまそそ。
 眼前あり。我愛りむ。我多。をわげむ。胡
 夕勤さむ。をこなき。や。と。あまも思
 くと。う。道にらむ。皆妻子あふ。い。け。と。那
 く父母の愛と事。をり。あ。と。り。それ。之。業

年入る。う。は。目。に。父。母。を。う。と。む。は。な
 たり。我。死。あ。ま。い。も。あ。と。海。と。事。お。れ。能
 お。も。ひ。み。に。我。身。た。は。不。歳。と。く。と。冬。妻。や。と。云
 と。死。す。れ。子。や。い。ふ。物。も。那。い。は。時。我。を
 表。育。せ。し。人。の。あ。ま。人。と。や。我。を。女。抱。き
 入。何。人。也。や。抱。り。父。母。の。命。を。妻。子。は
 母。あ。り。や。あ。ま。い。は。鳥。の。鳴。き。反。響。と。く

親^{おや}よりくわむ^{かむ}ひとよりあり。人^{ひと}を^をあふ^{あふ}ふ
者^{もの}なるも。人^{ひと}なるも本^{ほん}心^{しん}た^たる^ると^とあ^あ。會^{あひまひ}就^すふ
を^をそ^そり^りあ^あれ^れや^やふ^ふる^る。あ^あら^らく^くお^おろ^ろる^るこ
事^{こと}あり。

詩曰

我^{われ}勸^{すす}世^よ人^{ひと}孝^{かう}父^ふ母^ぼ

父^ふ母^ぼ之^の恩^{おん}爾^{なん}爾^{なん}知^し否^や

懷^{くわい}胎^た十^{じゅう}月^{げつ}苦^く難^{なん}言^{げん}

乳^ち哺^ぶ三^{さん}年^{ねん}未^ま終^{しゅう}子^こ

每^{ごと}逢^ふ疾^{しやく}病^{びやう}更^{さら}周^{しゅう}心^{しん}

教^{けう}讀^{どく}成^{せい}人^{じん}求^{もと}配^{はい}偶^ぐ

豈^{あな}徒^た生^{せい}我^{われ}愛^{あい}劬^{あつ}勞^{らう}

終^{しゅう}身^{しん}為^な我^{われ}忙^{まじ}奔^{ほん}走^{そう}

子^こ欲^{よく}養^{やう}時^じ親^{しん}不^ふ在^{ざい}

欲^{よく}報^{ほう}周^{しゅう}極^{ごく}空^{くう}回^{かい}首^{しゅ}

莫^な教^{けう}風^{ふう}木^{ぼく}海^{かい}沾^{せん}襟^{きん}

我^{われ}勸^{すす}世^よ人^{ひと}孝^{かう}父^ふ母^ぼ

子の孝の心を養ふは、
木の葉に海の水が
濡れるように、
世に孝の心を
教ふるは、
風が木の葉に
海の水を濡らす
ように、
我は世に孝の心を
教ふる。

孝敬長上

故より今にむあまをかくりたり大あれを界。
かくりたりおほき人氏ありとも。なご一門
に礼義よりよりあはしうあやあし。か
あれらあまは礼義うといふ。あまははるる
あまを。あまは。あまは。あまは。あまは。
あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。
あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。

は重た事さる事也。主人より射し事
其礼を教る。をどむゆら事教る事
ましくも。主塔の回を教る。こゝに礼義を
教る事也。しんしん主人と事教する。
人のみま事事を授け。今更な事なり
ぬらぬ。是よりいふ。父母も孝行を教
し。次く。長上を事教する。此の二の

教と長上より。我々の年を事。又ハ
信あつら。つら。あまをいあり。まら
一室をい。男女をい。この親お
をぬ人。ま。い。ま。上。母の地。長上
成事教する。ま。は。つら。親と見より始
ま。ま。我々のま。生じて
遂に父母代り。父母は次く教

ぬきさき。ワ。兄。あり。と。や。さ。か。ら。父
 死。し。く。別。宅。に。居。る。も。當。り。年。家。族
 におもんず。會。し。家。財。を。配。分。す。れ。事。お
 違。あり。と。も。令。く。兄。の。裁。判。に。ま。じ。い。づ。り
 ぬ。し。是。ち。は。出。入。よ。り。て。兄。身。の。志。を
 み。成。果。に。會。し。し。兄。の。志。を。し。て。し。て
 我。り。形。を。加。れ。と。も。如。終。身。を。盡。す。を

志。し。ぬ。兄。を。存。し。む。し。は。う。れ。お。父。の
 命。を。な。し。り。一。族。の。う。ら。年。毎。に。入。り。て
 此。道。に。以。て。礼。義。を。盡。し。ぬ。終。ん。あ。ら。ぬ
 と。會。し。や。り。う。す。終。成。り。て。次。を。會。し。す。
 一。つ。あ。ま。は。今。は。世。の。人。親。族。の。恩。に。次。ぐ
 一。つ。あ。ま。長。く。を。考。敬。す。ら。よ。り。と。志。し。は。る。や。
 或。の。ま。ま。に。終。り。ま。う。と。も。我。を。償。ひ。て。去。り。

下りてゆく。所々もさしき不ぬあり。
くまも兄才親族をくくりてあり。
母もさうを天性骨肉にまゐる。
息愛くめ仇敵のあや。くさあを海
くま事あり。又他人をくく。くま
歌りて又や回事をくく。父はく
くま教く。くく。又や回事をくく。

兄はくく。教く。孔子郷村まは
くま。くく。一族の安全を。くま。
くま。くく。くま。くく。くま。
くま。くく。くま。くく。くま。
くま。くく。くま。くく。くま。
くま。くく。くま。くく。くま。
くま。くく。くま。くく。くま。
くま。くく。くま。くく。くま。
くま。くく。くま。くく。くま。

あはれむの^りに。長ふ^くお^もて。只^もせ^しと
之^を言^ふ。無^きを^もた^し。多^く就^は是^の事^に次^ぐと^も。
く^もた^し。其^の礼^をを^らむ^るあり。ゆ^ゝく^は是^とい
海^にも^つ。又^も長^ふの^中に^も。其^の礼^をを^らむ^る
心^をく^も人の^の禮^をも^たふ^る人^の子^となり^しと。
そ^の不^義に^あり^し人^の所^にも^ある^人
を^らむ^る。多^く是^と敬^むく^る。又^も我^の子^とい^はれ^し

な^る。或^は人^をた^し。年^の始^めに^も。材^の徳^を
あ^らむ^る。多^く是^と敬^むく^る。又^も我^の子^とい^はれ^し
人^の子^とい^はれ^し。長^ふの^中に^も。常^に其^の終^を
義^をを^らむ^る。あ^らむ^る。多^く是^と敬^むく^る。又^も我^の子^とい^はれ^し
所^にも^ある^人。高^くは^なる^人。賢^い人^と
い^はれ^し人^の老^い年^の人^と。あ^らむ^る。多^く是^と敬^むく^る。又^も我^の子^とい^はれ^し
を^らむ^る。天^下に^も。あ^らむ^る。多^く是^と敬^むく^る。又^も我^の子^とい^はれ^し

世にまかり。後の世にまかりて。時勢も流
れ。くくおまかり。世人の世にまかり
て。多。老をうやまひ。徳を教ふる
は。ぬらぬら。ぬらぬら。ぬらぬら。ぬらぬら
あり。

詩曰

我勸世人教長上

身先為教為榜樣

後船眼即眼前

簷前滴水毫不爽

分定言卑豈可誇

齒居先後勿宜元

逆理犯上刻難容

徐行後長時當講

傲為凶德自招罪

溫良恭讓入畫作

満則松楨謙則益

我勸世人敬長上

廿五

和賸郷里

凡都鄙を編む。同一郷村より住居する
人多。先祖以来。常に新なり。其
く別当を以て。其節目を忘るる者
多し。其地固まあり。我々の人
々。其やあつしく。親族を
其。是れ同一郷村の人。常に疎
累め

魚のしほれ事を志すべし。うかれ。今の世人。
一旦のやうり。又そのついでにうかれ。いふやうりて。日さ
流れらしめは忘る。あや。む嘆のさ事
あり。或一回の元。界を幸ふ。或も。金銀の
積と。と。りて。双方。い。う。り。と。あ。う。り。遂。し。ん
公事。解。法。も。も。な。や。ふ。一。部。の。さ。ら。だ。と。も
な。ふ。が。の。こ。ろ。に。始。を。さ。し。め。に。我。身。り

愚員と。然ら。う。り。お。あ。り。て。常。又。已。を。是。と
し。ふ。人。は。世。や。し。己。の。利。を。は。か。り。く。
人の。害。を。か。へ。り。と。は。元。う。り。我。身。の。あ。い。を
な。す。人。も。ふ。回。し。心。あり。然。る。人。と
あ。い。あ。い。を。さ。し。め。に。本。心。の。回。し。は。る。も
人。は。は。げ。ら。し。め。ら。り。て。我。身。も。は。げ。ら。し。め
さ。し。め。ら。り。て。は。げ。ら。し。め。ら。り。て。我。身。も。は。げ。ら。し。め

少やうの位を。志のつゝおとつ。お膳を。いむ。
但しる大ぶ學がくのよ。家けとま出いるり。富とく教けきをとく國くにのと
存ぞんありし。先まづ我われてち亂らんのむ。心こゝろありしとん。存ぞんや
とん。魚い。父ちち母はは日ひ孝こうのこゝろ。長ながといふは。みららせ
おなみこ痛いたすこ。今いま又また。みらならん。次つぎのと。女め婦ふ
のみち道みちをと重おもくや。といふは。みららせ。妻つまをお
とし。といふは。大法たいうあり。婦人おんな淫いん乱らんをそ。男おとこ

姑こ。子このち。魚い。といふは。又また。婦おんな人ひと。をと盗ぬすと
おと。といふは。法はふ。行ぎやう。けん。をそ。おと。といふは
妻つま親おやのい家かをと。といふは。海うみといふは。妻つまのい家かをと。
我われもも。年としのい。父ちち母ははのい。妻つまをと。といふは。又また
おと。いふ。はは。貧ひん。乏ぼう。ゆえ。清きよ。小せう。富とく。貴き。をと。といふは
大だい。我われ。不ふ。義ぎ。のい。法はふ。子こ。をと。といふは。魚い。といふは
といふは。をと。といふは。といふは。といふは。といふは。といふは。

常に悪行ありて人を志し候。或はこれ妻を
はらふ事ありて又身運に別者と志し候
らしくなく別列せらるるあり。何事といふか
法よりあつし候。家のねえ海へうたを
ひきし。又左家の人日父死して父の妾と
妻といふるもれあり。人倫をみたり。常法に
やぶらやうとせし。それなりちりさ親類の

強家を妻とひらり。何事あり。さ事あり。
凡郷村日あれ人の定気おのふ義をお守り候
候す候し。何事おまし。何事あり。常
りうらうらひ帯候の候。やむらひを同々定
むた事と云ふ。尤礼義は有し。真
宗志をばす候し。水火盗賊あふ。老
弱あふ。年より命の候。随分救授候し。

行路の急まき人をば。歳方と進小徳一。賢徳
 あま人を尊敬ひ。學問あま人をば。親しき。
 抄巻のれ人をば。あまなり。そ能くあま。
 友一。清きま。あまのあまなり。あま。
 然り。志の心人をば。あま。孤兒寡婦。
 老病のあま。あま。あま。あま。あま。
 窮乏のあま。あま。あま。あま。あま。

一。郷人のあま。あま。あま。あま。あま。
 町。あま。あま。あま。あま。あま。

詩曰

我勸世人睦鄰里。仁里愿從和睦始。
 須知海内皆兄弟。安得鄰居分彼此。

從來和氣終致祥

自古鄉情稱美水

東家有粟宜相贈

西家有勢勿輕使

偶逢患難必扶持

若遇告狀相勸止

同鄉共井如至親

我勸世人瞻鄉里

教訓子孫

凡在家者。子孫を重しとて。子孫人々

とせよ。父母も。人々も。あはれ。あはれ。あはれ。

善く。古語云く。人の志は事。おこし。大家お

おこし。おこし。おこし。おこし。おこし。おこし。

おこし。おこし。おこし。おこし。おこし。おこし。

おこし。おこし。おこし。おこし。おこし。おこし。

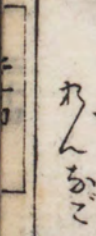
法の幼稚のの時らり。才子父見女行の考とく
 年をける者とは教入ると考とく。法毎
 言語を傳ふ事もやらずに先記居る也。
その考とくは、
 志のあらやらぬ事をしひむ
 手はなさる事をしひむ也。
 海と陸と多く無れる事やらずに
 心をくつつし入る事をしひむ。

ありに地をゆめとしては飲食衣服法とく。
 常に矯を制しては自由心を好む也。
 心をゆめ白濁切り量力短心物法とす也。
 好く日を費と事ある事もなしとす。
 久り来り近しきを考とく。すまには近しきを
 悪くとしつたり。能く遊女場愛好場也と考とく
 けこ心をくつつし次に操を浮氣の事とす也。

當り。亦く服方の養日満^{みち}て一切^{いっせつ}の飲食^{おんじき}衣
服^{ふく}言語^{ごんご}奉^{ほう}勅^{とく}あり。少兒^{せうじ}之^の氣^き道^{みち}よりとて
与^よく之^の是^の日^のよりとて子孫^{しそん}を於^おけり。幼少^{せうせう}
より一言^{いちごん}力^{りき}よりとて強^{かう}法^{ぽう}奉^{ほう}ありとて一毛^{いちもう}の好^{こう}事^じ
成^なる。又^{また}之^の後^のより好^{こう}習^{じゆ}り海^{うみ}とありとて放^{ほう}逸^{いつ}を好^{こう}
む。然^{しか}るも礼^{らい}義^ぎの平^{たい}と事^じとありとて
たましく学^{がく}文^{ぶん}をこころひていふよ。人^{ひと}なるも



成^{なり}教^{けう}てんとてはせとて事^{こと}。又^{また}之^の氣^きを以^もて名^な利^り
の嫌^{きら}むはあり。其^{その}子孫^{しそん}たるも学^{がく}文^{ぶん}とて
云^いふとて力^{りき}理^りををく何^{なに}法^{ぽう}の自^{おの}得^{とく}すをさ。
我^{われ}身^み能^{あた}りしりともあり。何^{なに}の益^{えき}もあらず。
所^{ところ}ふやとて或^{ある}は貨^わ財^{さい}を貪^{あきら}み。其^{その}身^み酒^{しゆ}肉^{にく}
下^{くだ}飲^{いん}り。好^{こう}むを悪^{あく}ふを好^{こう}む。男^{おとこ}を好^{こう}むは
也^{なり}。父母^{ふぼ}よりとて難^{がた}法^{ぽう}と好^{こう}む。又^{また}女^{むすめ}も。



家子ありては子教訓乃法なく。氣随り
ては子ありては人子嫁くも家と治る
事ありては子教訓乃法なく。者も世に
其れを教く。不かく。是れも子孫の事
ありては。子孫の教訓乃法なく。子
孫あり。志く。終る。親を怠る。子も
了あり。此れ。孔子も子孫を教く。是れを

此れを宣る。むも。ありては。事あり。

詩曰

我勸世人訓子孫

子孫成敗閑家門

良玉不琢不成器

若還驕養是病根

寢坐視聽胎有教

箕裘弓冶武備繩

詩曰

黃金萬兩有時盡

詩書一卷可常存

養子不教父之過

愛而勿勞豈是恩

世間不肖因姑息

我勸世人訓子孫

各安生理

天地の回日生るややれ人々其職其富と論
 と心事をく。人々我よりありたり。其心
 あり。是れ其の生涯日流るる定り毎に
 有る理あり。生理とあり。其生理あり
 其理あり。其理あり。其理あり。其理あり
 其理あり。其理あり。其理あり。其理あり
 其理あり。其理あり。其理あり。其理あり
 其理あり。其理あり。其理あり。其理あり

をくくも回さく。ひきかたにふせむ。我日道
をくく衣舎いせ好このま。なま。ふく。又女メ人ヲも
生理せいりあり。古ふるへ。國くに主ぬしの法はふも。つ。く。器くわい
操くわいも。衣い服ふくをつ作つくる。つ。會あひり。次つぎや。さ
ふ。り。め。下した。人ひと。い。ま。は。は。く。る。色いろの。つ。元もと
と。良よの。婦ふ女にょも。華は麗れいと。出いの。ま。う。す。格かく然ぜん
成なり樂たのしみ。ま。と。常つねに。扱あつかを。り。か。れ。結むすま。う。を

勤つとむ。や。く。お。さ。を。ま。く。病いも。幸さい若じやくと。ま。り
の。ま。ま。く。一ひと。是こゝろ女にょの。生なま理りた。り。ま。う。笑わら
る。に。は。を。之これの。人ひと。男おとこ女メと。も。い。幼せう少せうの。り
氣き過あやり。ま。ま。あ。ま。年とし長ながく。も。陰かげも。
ま。ま。あ。み。を。ま。ま。く。我われ日ひ道みちも。も。職しやくも
お。事ことを。ま。ま。り。は。く。ひ。ま。日ひお。の。樂たのしみも。む
あ。ま。ま。の。を。は。く。ま。の。あ。り。格かく中ちゆう富ふ貴き

の歌より生る人ハ。習る銀紙に。終と。常
可不向く。其前。後日。叩つ。道。其。腹。方。日
ま。ま。厚。味。口。り。あ。く。は。は。あ。く。も。め。を
ふ。あ。く。と。あ。ろ。お。も。く。と。と。一。旦。時。移。り
勢。心。を。思。ひ。は。は。あ。く。富。貴。ハ。一。言。の。後
を。守。り。習。日。出。海。飽。暖。日。く。く。く。何
新。林。藝。も。た。く。く。を。信。小。く。く。と。あ。く。く。

漸く。り。落。ち。あ。く。く。庶。民。ハ。あ。く。く。む。く。く
く。り。其。れ。を。く。く。好。ま。く。あ。く。く。く。く。く。く。く
も。や。強。さ。く。く。の。世。樂。を。好。む。あ。く。く。く。く。く
く。あ。く。く。れ。或。を。好。む。り。た。り。く。く。く。く。く
情。愛。を。好。む。酒。を。好。む。り。あ。く。く。く。く。く。く。く
秋。家。業。は。あ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く
く。く。く。家。族。も。ほ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く

さまいさしむとわれは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 きくみや。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 まい。世樂をたぬ。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 織子オリゴの事。一筋の守る。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 とせは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 あり。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 手テ免メと。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。

事もあ。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 心ココロの事。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 元ハジメより。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 心ココロの事。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 心ココロの事。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 心ココロの事。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 心ココロの事。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 心ココロの事。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 心ココロの事。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。
 心ココロの事。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。いさむしむとわれは。

已々。子向の慶可憐。秋力眠々八天
 止まらぬ冬あはれ。常より我事なむ
 やし成り。名をさし心子あつこ
 志しは非や。生理成るんあはれ
 子に成るは

詩曰

我勸世人安生理

素位而行稱君子

榮枯得失命安排

士農工商業莫徒

妄想心高百無成

厭常喜新沒終始

養多不精不養生

遊手好閑窮到底

皇天不負苦心人

須知安否能守己

皇天不負苦心人

須知安否能守己

更知しる後幸ごこう断たんと難行なんぎやう

我われ勸すす世よ入い安生理あんせいり

母はは作つく非ひ為な

天下てんかよりあゝゆ致いた事こととをを窮きゆうする所ところとて
冬ふゆも。次つぎへ々々是こゝ北きた極ごく地ちのは道みち
理り子こ志しとては是こゝ中ちゆう。乃すなは理りりに能よくを非ひ
やら。何なにもも反はん此こゝ。ああをを彼かをを此こゝるる也や
云いふふり。今いまもも亦また彼かをを尋たづねねるる。少すく少すく悪あく道みち強つよ盜たう。
人ひとをを去される。火ひをを付つくくやや。ああららむむをを以もつつ。

世女日満き博愛をなれし。碎ねき。宣候
世好と。私曲をひきく。貸賦を食れ。是あり
みふ大なる子遊あや云へし。其起りて。今
うらり。悔と。是悟を得りて。おんえは。大趣小
色むれ。亦子。亦小。法。法。耗し。果し。臨み。人。も
あり。み。法。亦。法。何し。家を破る。あり。それ
時より。むり。く。は。あ。う。後。悔。は。い。ち。も。我。と。れ

き。此。事。に。く。我。也。受。く。獨。お。れ。ち。誰。を。り
く。く。み。強。を。り。や。り。め。ん。持。る。子。前。車。先。覆
お。を。え。る。め。も。悪。法。亦。法。撰。む。心。より。皆。る
後。車。の。い。ま。う。り。を。志。し。は。せ。れ。読。り。も。夢
光。夢。を。莫。も。く。死。し。川。め。ら。ひ。川。を。く。り。子
を。い。ぬ。り。あ。り。記。事。御。一。毎。早。竟。り。い。り
也。り。や。り。我。を。さ。さ。が。り。く。章。の。も。獨。り



明の教といふを。何う教ふもよく。まゝに
之、材智もあり。冥冥にもある人あり。然るに
本ちみの邪よ智ち母はより。事こと成なりるを。又またを教しむ
或あるは無な氣き。一いつを。終はつに。法はふ成なり
ゆふ。そふちみのちみ考かんりよめ。おほく。此こゝに
あはれ。此こゝに。又また生う質しつ柔じゆう弱じやくふ人ひとを。
平生へいぜい愈いり。月つき日ひ法はふ送そうふをや。たゞ

日ひあら。此こゝに。終はつに。多た途とあやかり
来きり。今いまより。改かひ悔かいを。事ことのやうに。ま
ゆまく。うら。於おに。人ひとあり。大だいなる。非ひ。
事ことの。い。我われ人ひと聖せい賢けんより。行いく。福ふくを。
者もの道みちより。道みちを。い。今いまより。一いつ念ねん愛あい記き。
已まり。非ひ信しんあり。たゞ。此こゝに。今日けふより。一いつ念ねん愛あい記き。
ら。人ひとを。たゞ。今いまより。一いつ念ねん愛あい記き。

ともども守る也。これらも不^ふ善^{ぜん}の事
 行^なる也。何れも善^{ぜん}の事あり。まこと佛^{ぶつ}法^{ぽう}
 慈^{あはれ}悲^ひに愛^{あい}を貪^{あやむ}欲^{よく}をいまへむ事有
 り。あ^あらうや。是^{これ}も儒^{にう}道^{だう}下^げに於^おて。神^{かみ}
 乃^{すなは}ち佛法^{ぶつぽう}の中^{ちゆう}に魚^{いさな}と魚^{いさな}。魚^{いさな}の如^{ごと}く我^{われ}身^みは非^ひ也^{なり}
 然^{しか}して。是^{これ}も愛^{あい}の如^{ごと}く。是^{これ}も事^{こと}有
 り。魚^{いさな}の如^{ごと}く。是^{これ}も事^{こと}有^あり。身^みの

人の心^{こころ}も是^{これ}も誠^{まこと}に事^{こと}有^あり。本
 なる中^{ちゆう}に。又^{また}在^ある人^{ひと}の悔^{くわい}の事^{こと}を
 在^ある中^{ちゆう}に。是^{これ}も佛^{ぶつ}を信^{しん}じて。生^{なま}ま
 死^し後^ごを。是^{これ}も佛^{ぶつ}を信^{しん}じて。生^{なま}ま
 死^し後^ごを。是^{これ}も佛^{ぶつ}を信^{しん}じて。生^{なま}ま
 死^し後^ごを。是^{これ}も佛^{ぶつ}を信^{しん}じて。生^{なま}ま
 死^し後^ごを。是^{これ}も佛^{ぶつ}を信^{しん}じて。生^{なま}ま

上は非を為めやしく。あはれゆのよの世にや免
 けあしやみそなり。たゞしんふも仁義は
 小やく新ぬとも。陰悪はあらをなほせん。
 人ばあさむき得ぬやも。天候のむじき
 取し。五徳の源とけりふとも。神田の健と
 かり新なること。さし入る人の私徳と。天
 地徳は雷のあやし。をふる密事を。

神は目より電のこころをいふり。何ろ
 なるまははらうとけり。

詩曰

我勸世人莫非為

非為由来是禍基

只因一點念頭錯

詎料終身自喫虧

姦淫賊盜方終起

拋屍露骨身難保

張然逃得官刑過

及蚤回心猶可救

總詩

徒流絞斬即相隨

帶鎖披枷悔是遲

神明報應不差池

我勸世人莫罪為

聖人之道六言足

果能實之通行矣

天下太平此一書

便是唐虞二代初

六諭衍義大意跋

世之能學問知義理者姑舍無
論已。其餘農圃陶冶販鬻之徒。
比屋樹畜竈炊于閭左鄉曲。何
翅億萬苟無教道以率之徒。知
競錐刀事煖飽而已。使之服勤
共職亦已難矣。况乎物我町畦。

骨肉相軋。豈可遽以孝悌敦睦
之行責之。若教以詩書之言。督
以聖詰之訓。彼將藐乎不聞。褻
如克身。曷若以淺近易入之言
誘之。使其馴致。而至於善為愈。
孔子曰。民可使由之。不可使知
之。周禮有讀法之會。後賢有鄉

閭之約。所以扶翼釁序。維持風
教。亦不過使民由之爾。自學校
之政。不脩而後。獨以號令教天
下。世主憂其化之擁闕於下也。
法驅刑威。科條繁興。密網深文。
以罟民聽。則有之。未聞有軫念
宵旰。託意渙汗。諄諄諭民於道。

者。及_ニ明_一興_ニ。迺_テ始_テ倦_ニ。倦_ニ。諭_一告_一之_一詔_ニ。
常_ニ與_ニ刑_一律_一並_ニ布_ニ天_一下_ニ。觀_ニ夫_一清_一帝_一。
六_一諭_一。亦_ニ規_ニ勝_一國_一而_ニ倣_ニ為_一之_一。豈_ニ以_ニ
夷_一變_ニ於_ニ夏_一者_一耶。至_ニ於_ニ會_一稽_一范_一鏡_一。
就_ニ以_ニ民_一俗_一之_一語_一為_ニ之_一行_一義_一可_レ謂_ニ
善_ニ於_ニ教_一諭_一者_一。其_レ於_ニ奉_一上_一令_一下_一。兩_レ
盡_レ之_一矣。

本_一邦_一表_ニ東_一海_一號_一稱_ニ君_一子_一之_一國_一方_一今_一。
遇_ニ禮_一樂_一之_一興_一文_一獻_一輻_一湊_一治_一具_一畢_一。
張_ニ而_ニ六_一諭_一之_一書_一為_ニ政_一議_一所_一取_一於_ニ
是_ニ。
特_一旨_一并_レ書_一授_ニ臣_一直_一清_一撮_ニ其_一大_一意_一譯_ニ
以_ニ國_一語_一遂_ニ付_ニ有_一司_一雕_一印_一以_ニ行_一於_ニ
四_一方_一代_ニ道_一鐸_一之_一令_一惟_ニ冀_一為_ニ守_一令_一。

者。祇承_ニ

德_一意_一以_一令_一郡_一縣_一。為_ニ下_一民_一者。朝_一夕_一羹

牆_一。以_一訓_一子_一孫_一。更_ニ相_一倡_一隨_一。陶_一鎔_一成_一

化_一。遂_ニ將_一階_一鎬_一洛_一之_一治_一。致_中刑_一措_一之

隆_上焉。豈_レ小_レ補_一之_一云_ニ哉_一。

享_一保_一七_一年_一歲_一次_一壬_一寅_一春_一二_一月_一二_一十

五_一日_一臣_一室_一直_一清_一奉_一

教_ラ撰_ス



八十三公羽藤原順清敬書



